

大学図書館の可能性

牛崎 進（立教大学兼任講師）

1 大学の経営環境

大学は厳しい経営環境にある。その要因は以下のようなものだ。

- ・ 外的要因
 - 少子化・・・・・・・・
 - 大学間競争・・・・・・・・

- ・ 内的要因
 - 教育の質保証・・・
 - 財政改革・・・・・・・・
 - 人事政策・・・・・・・・

2 大学図書館をめぐる課題と対策

(1) 大学経営環境から下りている顕著な現象

- ・ 図書費の抑制ないしは削減および運営費の圧縮

- ・ 職員数の減少、職員の能力アップ施策、アウトソーシングの利用

- ・ 専門職制度の衰退の結果、業務継承や人材育成に不透明感

- ・ ネット環境における情報探索行動の多様化に対応できる図書館サービスの模索
学習支援（ラーニングコモンズなど）環境の整備もこれに含まれる。

上記の内、最初の3件は職員の内向き思考を招いており、かつてのような他大学図書館との協力事業に取り組む積極性は下火となっている。大学職員業務の中で大学間で最も標準化された業務やサービスをしている図書館の職員が内向き思考のまま推移すれば、大学図書館の発展や大学図書館界の将来展望が気になるとことである。

この内向き思考は、図書館に限らず大学界全体の現象のように見える。

(2) 対策

- ・ 図書館間協力、コンソーシアム

- ・ 職員の育成

・情報リテラシー教育のシステム化

3 大学図書館の可能性

学生の関心や不安の種は何なのだろう。大学は何を改善すれば彼らの満足度を上げられるのか。例えば、サークルでの人間関係、就職準備、自分探し、教養アップ、アルバイト等生活費の確保、キャンパスでの居心地、友人作り、言語運用力のアップ、等々。

上記の関心や不安の種に図書館がどう関わり得るのか、という疑問が湧くかも知れない。大学図書館のそもそもの使命は、蔵書や電子情報（電子ブックや電子ジャーナル、新聞等のデータベース）を利用者に提供し、保存することだという正論である。

しかし、最近のコミュニティセンター内に配置された公共図書館が、そのサービスメニューの斬新さもあって好評である事実は、大学図書館もラーニングコモンズの設置に留まらず、何事か（何事でも）を成しうる可能性を示唆している。

上述のように大学および大学図書館の厳しい経営環境は、発想を変えれば、新たな企画を待望するチャレンジングな世界にいるとも言える。これに挑むには次の諸点が留意項目だろう。

(1) 大学のミッション、ビジョンを常に意識すること

(2) マーケットを知ること

(3) 着手点

(4) 広報

最後に、職員みなさんにエールを送りたい。

・何かを成し遂げるには、学生の成長を支援したいという熱いパッションが原点です。この支援を担うことで職員として成長できることを楽しんでほしい。

・最近、授業を担当している科目の学生が、大量にネット情報が溢れて情報の取捨が困難な今日、先生は（紙媒体のみだった）昔と今を比べてどちらがよかったと思いますか、と質問してきました。私のコメントは‘いつでも今です’というものでした。

のんびりとした職員人生はすっかり過去のものですが、それでも今が面白い時代だと言い切ることができます。

以上